



鹿児島大学教育学部
教岳会会報
第25号
令和5年10月31日
発行
鹿児島大学教育学部教岳会
〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
TEL・FAX
099-285-7718
●教岳会ホームページ
https://kadai-edu-dousou.com/
編集・印刷
濱島印刷(株)

「教岳会」誕生の意義

鹿児島大学教育学部教岳会会長 東 寛治



平成10年に設立された教育学部同窓会は、本年「25周年」という節目を迎えました。これもひとえに歴代の役員及び関係者の方々が、綿々と同窓会の運営に努力された賜物であり、感謝申し上げます。

四半世紀という時を経て社会情勢は大きく変化し、同窓会も色々な課題を抱えています。

まず。

例えば、学年や学科等の同期による同窓会は知っていても教育学部同窓会を知らず、その意義さえ感じないという声も聞えてきます。会員の間に教育学部同窓会の認知度が低いという風潮の現れでしょうか。最近、新入会員の入会率が低下してきています。同窓会は、新入会員の会費(終身会費一万円)によって運営しているの、新入会員の

減少は会の存続にも関わる重大な問題です。

また、コロナ禍等により会員相互の親睦が希薄になってきています。そのため、同窓会では、25周年を契機にして二つの新事業に取り組みました。

一つは、同窓会に「愛称」を付けることです。同窓会に親しみを感じ、同窓会に対する帰属意識や参加意識を醸成したいという思いから、昨年度愛称を募集し、本年度の総会で「教岳会(きょうたけかい)」とすることに決めました。「教岳会」は、同窓会の歌「我が友よ」の1番の歌詞に由来しています。「教えの庭で雄大な

な桜島(岳)を仰ぎつつ教育に思いを込めた同志の会」という意味で、教学一如の心に繋がる仲間たちの会です。

二つは、「教岳会ゴルフ大会」を10月に南国CCで開催する予定です。自然の中で、幅広い年齢層の約90人が参加し、プレーを楽しみながら交流します。大会の様子は、ホームページに掲載しますので、ぜひご覧ください。

本年度は、このような記念事業の他に、後継者育成事業「まごころアドバイザー事業」を充実しました。教員採用試験の低い倍率や教員不足等の状況を同窓会としても看過することはできません。在学生準会員)を同窓の仲間として育みます。

「教岳会」は、今後も先輩後輩の繋がりを大切に、共に学び、共に集い、教えの庭の絆を深めてまいります。

10年先の教員養成を考える

鹿児島大学教育学部部長 有倉 巳幸



昨年12月末、「令和の日本型学校教育」の令和3年度

答申を受けて、それを担う教師の在り方答申が出ました。その実現に向けて、教員養成学部は次の局面に入ったと感じています。というのは、現在は教員不足と採用試験倍率の低下に伴う合格者の質低下への懸念が指摘されていますが、そのような中でも人口減

少社会は着実に進んでおり、全国では今年度が採用のピークであり、遅れて鹿児島県でも教員需要は減っていくとの見通しです。

本学教育学部は、ここ数年間で40%であった教員就職率が60%を超えることができました。おそらく数年間は60%台を維持できるのではないかと思います。人口減少社会に加え、定年延長による教員需要の低下に備え、今後の学部の在り方を検討する必要があると考

えます。一つは、教員志望の高校生にキャリアの見直しを持たせ、もし鹿児島大学に入学してきたら学部の教員養成カリキュラムを通じて資質を確実に身に付けてもらい、教員として送り出すこと。もう一つは、本学を卒業した教員への卒業支援を充実させることです。この二点を検討したいと思います。前者は、高校生向け教員養成早期履修プログラムとして実施します。後者は、既に教職大学院では実施していますが、学部卒の学生にも拡充できるように検討したいと思います。

これらは、いずれも教員養成の質保証という大きな目的の下に実施されるのですが、

「25周年」同窓会総会・懇親会
4年ぶりの対面開催に笑顔
— 愛称を「教岳会」に —

迷走台風6号が近づくと、8月6日(日)、サンロイヤルホテルで、第26回同窓会総会・懇親会が4年ぶりに対面で開催され、75人の同窓生が参集した。

総会では、まず、「教育学部同窓会」の設立にもご尽力いただいた石神正明名誉会長に感謝状が贈られた。開会の挨拶で、東 寛治会長が、「同窓会25周年事業」(①同窓会の愛称②ゴルフ大会③後継者育成事業「まごころアドバイザー事業」の充実④ホームページのリニューアル)等について説明した。続いて、有倉巳幸教育学部部長の挨拶、黒木誠県教育次長の祝辞を聞いた。

協議では、同窓会の愛称を「教岳会」とすることが承認された。愛称を呼び合い、仲間意識を深め、「教岳会」に対する親しみを増していくことを願う。また、「教岳会ゴルフ大会」への参加の呼び掛けや、会員減等に伴い運営資金が逼迫していることから、運営協力金へのお願いがあった。

その後、有倉学部長に「鹿児島大学教育学部の現状と今後の教員養成に向けて」という演題でご講演いただいた。「令和の日本型学校教育」答申で示された課題への取組や、教育学部の教員就職率低迷に対する取組等について話された。教員採用試験の競争率低下への懸念もあり、会員は熱心に聴き入っていた。

総会后、昭和55年卒生(福留隆二代表)が世話係として



協議では、同窓会の愛称を「教岳会」とすることが承認された。愛称を呼び合い、仲間意識を深め、「教岳会」に対する親しみを増していくことを願う。また、「教岳会ゴルフ大会」への参加の呼び掛けや、会員減等に伴い運営資金が逼迫していることから、運営協力金へのお願いがあった。

その後、有倉学部長に「鹿児島大学教育学部の現状と今後の教員養成に向けて」という演題でご講演いただいた。「令和の日本型学校教育」答申で示された課題への取組や、教育学部の教員就職率低迷に対する取組等について話された。教員採用試験の競争率低下への懸念もあり、会員は熱心に聴き入っていた。

総会后、昭和55年卒生(福留隆二代表)が世話係として

コロナ禍を乗り越えた笑顔の懇親会

日本教育公務員弘済会 鹿児島支部参事 福留 隆二



昨年、コロナ禍の中で中止を余儀なくされた同窓会の

懇親会。私たち昭和55年卒の4人の係は、「今年こそはぜひ実施したい」との強い思いで準備を進めてまいりました。しかし、沖縄を通過した台風6号がコースを変え、ブーメランのように鹿児島に向かっています。暗雲が立ち込めた

の運びとなり、ほっとしました。私たちは、最初の打合せ会を4月に行いました。具体的な準備内容が分からないまま雲をつかむような話し合いでしたが、同じ方向に向かって頑張ろうという結団式のような会になりました。その後、徐々に準備内容が明確になり、段取りが分かってきました。久保総務部長や事務局の野間さんとも連携を図りながら準備を進めることができました。7月になって、参加者の

準備した懇親会が開催され、「我が友よ」を全員で歌い、開宴となった。司会の食事を促すアナウンスも聞こえないほど、会話を楽しむ声で賑わった。そして、北原稔元幹事の万歳三唱、黒松正信次年度世話係代表(昭和56年卒)の閉会の挨拶で、盛会のうちには終わった。

出席者からは、「お世話になった先生に会えて、とても嬉しかった」、「同学年の出席者が少なかつたので声掛けをしていきたい」、「教員志望者が減っていることは残念だ。教員の魅力は何か、改めて考えてみたい」などの感想が寄せられた。

今回、次年度世話係も受付や懇親会司会の補助として携わっており、先輩後輩の繋がりを感じた。来年の第27回を楽しみに待ちたい。

名前が分かってくると急に忙しくなりましたが、それまで話し合ってきたことを具体的に進めることができ、やりがいを感じることができました。当日運営を手伝ってくれた私たちの仲間にも感謝しています。

4年ぶりの開催ということや、コロナの感染拡大も心配される中、どれだけの方がお越したださるか心配しましたが、75人の参加があり、大変盛り上がりました。会場では、開会前から久しぶりの再会を喜ぶ声が響き渡っていました。



活動の基本方針

- 平成10年(1998年)に設立され、25周年を迎える教育学部同窓会は、未だに終息しない新型コロナに...

事業計画

- 5月17日(水) 第1回三役会(役員改選等について)
5月24日(水) 第1回広報部会(会報25号の企画・原稿依頼)...

令和4年度 決算(一般会計)

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 決算額, 増減額, 備考. Section 1: 収入の部

Table with 5 columns: 区分, 予算額, 決算額, 増減額, 備考. Section 2: 支出の部

令和5年度 予算(一般会計)

Table with 5 columns: 区分, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額, 備考. Section 1: 収入の部

Table with 5 columns: 区分, 令和4年度決算額, 令和5年度予算額, 備考. Section 2: 支出の部

役員表: 顧問, 名誉会長, 会長, 副会長, 副会長, 副会長, 理事, 監事, 庶務

支部分部表: 支部分部名, 支部分部長, 支部分部員

支部分部表: 支部分部名, 支部分部長, 支部分部員

学生・若手教員を支える 重層的支援

鹿児島大学教育学部教職支援室特任教授 迫田 孝志



令和5年3月末で教職大学院を退職し、4月から教職支援室勤務となりました。

書・ワークシート・設営・生徒指導等の具体的な助言は、授業づくりや学級経営を充実させるヒントにつながります。

令和5年3月末で教職大学院を退職し、4月から教職支援室勤務となりました。これまで自主学習会として行っていたことを業務として行える喜びを感じる毎日です。

私も、これまで続けてきた学生と臨時的任用教員を含む若手教員と一緒に学ぶ自主学習会をベリスに、卒業生も気軽に入室できる教職支援室を目指して努力したいと考えます。



HP 最新情報発信中!!



教岳会の最新情報やお知らせを掲載中です。
アドレス: <https://kadai-edu-dousou.com/>
スマートフォンでも見やす画面構成になっています。
なお、住所を変更された場合は、HPトップ画面上部に
あるメニューアイコンから「住所変更」に進み、教岳会
事務局へお知らせください。
※「会報アーカイブ」で初号から閲覧可能。

会費納入のお願い

教岳会では、「会員相互の親睦、鹿児島大学及び
本学部の発展と本県教育の振興を図る」という目的
達成に向けて様々な活動を推進するために、終身会
費1万円を、在学生は入学時に、卒業生は随時納入
することになっていますが、会費未納の卒業生が多
数おられます。
未納の皆様におかれましては、会費を納入してい
ただきますようお願いいたします。
※納入方法については、事務局に直接ご連絡ください。
(TEL・FAX 099-285-17718)

「教岳会運営協力金」募金のお礼とお願い

教岳会の運営は、新入生（未納の在校生及び卒業
生を含む）の入会金（終身会費1万円）で賄われて
います。しかし、近年の教育学部入学定員の減少や、
それに伴う新入生の入会金の納入減等により、運営
は年々厳しくなっています。
そのため、平成30年度から、「教岳会運営協力金」
のお願いをしております。お陰様で多くの篤志
をいただき、教岳会活動の運営に活用させていただ
いております。ご協力をいただきました会員の皆様
に心から感謝申し上げますとともに、「会報25号」
にご芳名を掲載し、お礼とさせていただきます。
今年度も、「教岳会運営協力金」の募金を左記の
要領で実施させていただきますと考えます。昨今の
厳しい経済状況下で大変恐縮に存じますが、教岳会
の持続的な活動のために、ご協力を賜りますようお
願い申し上げます。

《募金要領》

- ① 一口千円で、幾口でも承ります。
- ② 別添「払込取扱票」によりご送金ください。
- ③ 募金の受付は、通年で、随時行っております。
- ④ 協力者のご芳名を「会報」に掲載し、お礼とさ
せていただきます。(掲載を希望されない場合は、
その旨を連絡してください。)



2022年7月26日から2023年9月
20日までに運営協力金にご賛同をいただいた
皆様のお名前です。
ご協力誠にありがとうございました。
(順不同)

昭和26年卒 山口 幸治	昭和27年卒 橋本 敏子	昭和28年卒 木山 照夫	昭和29年卒 海老原一男	昭和30年卒 植村 郁子	昭和31年卒 堀切 國和	昭和32年卒 山鹿 敏夫	昭和33年卒 岡山 倫夫	昭和34年卒 新堂 倫子	昭和35年卒 小島 孝夫	昭和37年卒 瀬戸口 正明	昭和38年卒 有川 和秀	昭和39年卒 福盛 知弘	昭和40年卒 南 貞己	昭和41年卒 永田 文彦	昭和42年卒 川内野一彌	昭和43年卒 出口 定昭	昭和44年卒 泊 芳英	昭和45年卒 平澤 光徳	昭和46年卒 中野 翠	昭和47年卒 浦口 俊裕	昭和48年卒 後藤千和子	昭和49年卒 上屋 和夫	昭和50年卒 井上 浩一	昭和51年卒 西 悠子	昭和52年卒 田之上 齊	昭和53年卒 寺師 千歳	昭和54年卒 小路由美子	昭和55年卒 松永 郁男	昭和56年卒 光 一博	昭和62年卒 長元 武彦	昭和63年卒 吉田 寿世	昭和64年卒 大園 紀香	昭和65年卒 丹羽さよこ	昭和66年卒 山之内太一	昭和67年卒 有村 宏史	昭和68年卒 山之内太一	昭和69年卒 丹羽さよこ	昭和70年卒 大園 紀香	昭和71年卒 吉田 寿世	昭和72年卒 大園 紀香	昭和73年卒 丹羽さよこ	昭和74年卒 山之内太一	昭和75年卒 有村 宏史	昭和76年卒 山之内太一	昭和77年卒 丹羽さよこ	昭和78年卒 大園 紀香	昭和79年卒 吉田 寿世	昭和80年卒 大園 紀香	昭和81年卒 丹羽さよこ	昭和82年卒 山之内太一	昭和83年卒 有村 宏史	昭和84年卒 山之内太一	昭和85年卒 丹羽さよこ	昭和86年卒 大園 紀香	昭和87年卒 吉田 寿世	昭和88年卒 大園 紀香	昭和89年卒 丹羽さよこ	昭和90年卒 山之内太一	昭和91年卒 有村 宏史	昭和92年卒 山之内太一	昭和93年卒 丹羽さよこ	昭和94年卒 大園 紀香	昭和95年卒 吉田 寿世	昭和96年卒 大園 紀香	昭和97年卒 丹羽さよこ	昭和98年卒 山之内太一	昭和99年卒 有村 宏史	令和元年卒 山之内太一	令和2年卒 有村 宏史	令和3年卒 山之内太一	令和4年卒 有村 宏史	令和5年卒 山之内太一	令和6年卒 有村 宏史	令和7年卒 山之内太一	令和8年卒 有村 宏史	令和9年卒 山之内太一	令和10年卒 有村 宏史
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	------------------	-----------------	-----------------	----------------	-----------------	-----------------	-----------------	----------------	-----------------	----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	-----------------

第26回教岳会懇親会を担当します



鹿児島市学校給食会 事務局長
昭和56年卒 児玉 泰男

5月8日 から、新型コロナウイルス感染症への対応が2類から5類へ移行し、外出制限等の行動制限が無くなりました。それに伴い、今まで延期・中止されていたイベント等が開催され、以前の生活へ戻りつつあります。

8月6日、同窓会懇親会が4年ぶりに盛大に開催されました。総会で、同窓会の愛称についても話し合わせ、シンボル桜島を仰ぐ学び舎で教育に燃える思いを込めた会「教岳会」とすることが承認されました。今後の同窓会の深い絆を予感することでした。

また、懇親会では75人の参加があり、懐かしい先輩方や同年代の仲間たちが語り合いの花を咲かせました。誠に意義深い豊かな時間が流れ、予定されていた2時間があつという間に過ぎていきました。

来年は、56年卒生がこの伝統ある懇親会を担当することになりました。不慣れで不安を抱えながらも、今更にはありますが、今回担当同窓生の助言を頂き、そして、役員の皆様と連携しながら、56年卒の仲間たちと一緒に準備をしていきたいと思っております。

皆様方のご多幸をお祈りしながら、来年8月にお会いできることを楽しみにしたいと思います。多数の方のご参加をお願いします。

おじよとぶにせの会



学年代表世話役 昭和42年卒 山元 一八

運営資金 逼迫の中で、組織の維持 拡充・後継 者育成に腐心・尽力いただいている本部 役員・事務局の諸氏に敬意を表するとともに心から感謝申し上げます。

私たち42年卒生は、平成19年度第20回同窓会の運営担当として、一年前から諸準備を進めました。同期生諸氏の理解・協力により、当日は、240人余の出席を賜り、盛会裏に終了できたことは、大変ありがたく、懐かしい思い出です。

この時の実行委員会では、「これを機に、今まで小・中別々に開催してきた同期会を合同で開催しよう。」と衆議一致し、会長に橋口浩明、副会長に早川良行の両氏を選任しました。卒業後50周年を記念して、平成28年11月に第一回小中合同同期会「おじよとぶにせの会」を開催し、旧交を温めました。席上、「我々は既に『古稀』を過ぎているので、今後は歳月を置かず、会える時に会おう」ということになり、「二か月に一回開催する。加入・脱退は自由。期日設定は会長・副会長に一人任す。会場は終世、中央駅旧一番街『こだま』。時間は午後五時半〜八時。会費は三千元とする。」という「掟」を定め、各年度6回ずつ開催してきました。会の内容は、学生時代の懐旧談・現職中の苦勞話・現代教育への要望・会員の健康状況等、多岐にわたります。「むべなるかな!」と思えます。しかし、中央駅周辺の再開発や



代の仲間たちが語り合いの花を咲かせました。誠に意義深い豊かな時間が流れ、予定されていた2時間があつという間に過ぎていきました。

来年は、56年卒生がこの伝統ある懇親会を担当することになりました。不慣れで不安を抱えながらも、今更にはありますが、今回担当同窓生の助言を頂き、そして、役員の皆様と連携しながら、56年卒の仲間たちと一緒に準備をしていきたいと思っております。

皆様方のご多幸をお祈りしながら、来年8月にお会いできることを楽しみにしたいと思います。多数の方のご参加をお願いします。

私たち42年卒生は、間もなく「八十路の坂」に一步を踏み入れます。後期高齢者、下をうつむいてばかりでは「化石」になってしまうと自戒しております。かつて、サミエル・ウルマンは言いました。「歳を重ねるだけでは人は老いぬ。理想を失う時、初めて老いる。美・希望・喜び・勇気・力の靈感を持つ限り、人は皆若い!」と。

私たちが天を振り仰ぎ、眉を上げ、胸を張って、この「八十路の坂」を歩き続けましょう。まさきくて、又会はむ日のあれよかし、共に学びし我がはらからに

「鹿児島島の教育を語る会」

3年ぶりに『フォーラム』開催

テーマ「これからの時代の生きがい」 〜共に学ぶ教師として〜

令和元年度以来休止していたが、昨年度、コロナ対応型の『フォーラム』形式で3年ぶりに開催した。6人のパネリストが、それぞれの立場から提言し、フロア参加者と一体となって、教師としての思いや願いを熱く語り合った。

1 実施の概要

- 【期日】令和4年11月25日(金)
- 【場所】鹿児島大学教育学部内
- 【参加者】学生28人
教岳会員20人
- 【パネリストの提言の主旨】
(学生3人)



- ・「知りたい・やってみたい」という学びの原点を大切に」
- ・「これからの時代を生きる教師として」
- ・「子供たちが活躍したと思える場を作り出す教師に」
- ・「現任教諭2人」
- ・「教職に就いて教師としての生きがいや仕事のやりがい」
- ・「子供たちと共に考え、共に学び、成長していく教師として」

2 フロアからの意見・提言

- ・「仕事のやりがいとは、負荷のある仕事に挑むこと」
- ・「貴重な教育の話聞くことができ、教師への思いを強くした。」
- ・「校種を超えて共に学び合う教師になりたい。」
- ・「学生の皆さんには是非教師になってほしいとの思いを強くした。」

3 アンケートの意見や感想

- ・やる気満々の学生の意見や発表が素晴らしい。
- ・現役や退職された方々のポジティブな話を聞いて励みになった。
- ・教師になりたいという気持ちが強まった。子供の可能性を引き出す教師になりたい。
- ・自分も熱意をもった教師になりたい。

※本年度は、「グループ別協議形式」で、令和5年11月24日(金)に開催予定

『まごころアドバイス』 本格実施

2年目を迎え、本年度は期間を拡大して実施している。教師を目指す学生に「将来、素晴らしい教師になってほしい」との期待を込め、親身にアドバイスをしている。

1 実施の概要

- 【実施時期】
第一期 6月28日〜30日
第二期 7月31日〜8月4日
第三期 10月25日〜27日
- 【相談時間】一人60分間

2 実施の状況

- 【第一期】(相談者9人)
・「中学校教諭免許の取得」「教職への適性」・「教師の仕事の実際」について
- 【第二期】(相談者延べ26人)
・「教員採用試験二次面接の受け方(模擬面接の実施)」について

3 成果

- ・一期・二期共に「教師になりたい思いが強まった」と、高い評価を示し、本事業の趣旨に沿った結果が表れた。



4 相談者の感想

- ・親身になって、相談や提案をしてくださり、これからの進路の参考になった。
- ・もっと早くから相談に来ればよかった。是非後輩に勧めたい。
- ・専門的なアドバイスの上り、新たな視点が得られた。
- ・「大丈夫!」と、何度も励ましていただき、自信になった。
- ・実際の面接を想定した練習で緊張感も体験し、その後の指導により不安解消にもなった。
- ・経験談を聞いて、教師になりたいという気持ちが高まった。



謙虚に学び続ける

中等教育コース数学科専修4年
米盛 颯太



私が教師を志したのは、小学1年の時である。当時の担任の先生に憧れ「こんな人間になりたい」という気持ちを抱いたことがきっかけだ。それから15年ほどがたち私は本学の教育学部に在籍している。

令和2年度に入学した私たちは、少し苦しい大学生活を送ることとなった。入学式の式典は中止。授業も2週間ほど遅れて始まり、遠隔授業の毎日を経験していた。画面上のコミュニケーションでは、仲良くなるどころか、同じ学科の人たちの名前すら覚えることもままならなかった。

感染症の状況に左右されながらも、自分たちなりに工夫し、過ごしてきた4年間であった。しかし、数学を楽しまれたかと問われると、少し困ってしまう。在学中の4年間で知ることができた数学の世界はほんの僅かだ、まだまだ知らない世界が広がっている。

そこで、私が目指し始めたのが、数学検定の一級を取得することである。昔から数学が好きだった私にとって、それを資格にできることは、なんて素晴らしいことだろうと思った。しかし、一級となると簡単なことではない。この4年間で学んだことだけでは事足りない。そんなにもすぐに到達できることはないことも承知している。長い時間をかけて学び続け、いつか手にしたいものである。

私の夢

初等教育コース美術科専修4年
前田 夏美



鹿児島大学 教育学部 入学時の私の夢は、「学校を子供たちが学ぶことを楽しめ、思い通りの場所にできる先生になること」だった。期待と不安を胸に入学したが、新型コロナウイルス感染症が流行し始め、入学式も対面での授業もなく、友達にも会えず、不安なまま大学生活が始まった。しかし、そのような状況だったからこそ、一度立ち止まり、改めて自分を見つめ直し理解することができた。それまで小・中・高校と、「学校」という場所が、私の世界のほとんどを占めていたが、コロナ禍で大学に行けず、「学校」から一度離れてみたことで、より広い世界に目を向けることができた。自分は何をしたくて、どんな未来を描いていきたいのかを広い視点で考えることにより、更に可能性を広げて考えることができるようになった。関わる環境を広げることによって、夢や目標も広げることができたのだ。この経験によって「学校」という環境以外での学びや経験も重要ではないか」と考えるようになった。

このような大学生活での経験や気持ちを基に、卒業論文のテーマを「ワークシヨップによる学びについて」として研究している。子供たちが、「学校」だけでなく、もっと広い世界、多くの可能性に気付けるような経験をワークシヨップによって生み出したい。現在の私の夢は、「子供たちが『学ぶ』ことは楽しい。自分ももっと自由に人生を創造していけるのだ」と気付けるようなきっかけを作れる人になること」である。

編集後記

令和5年、新型コロナウイルスのために延期されていた「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」が開催され、我が同窓会では4年ぶりに対面での総会・懇親会が盛大に開催された。そして、念願であった愛称が「教岳会」に決まった。同窓会の歌「我が友よ」と共に同窓生の絆を一層深め、交流が活発化する縁となるに違いない。

「まごころアドバイス事業」等の成果が、コロナ禍を乗り越え、自分なりに工夫しながら学んでいる在学生の姿にも感じ取れる。教岳会は、今後も進化しながら後継者育成に尽力していきたい。玉稿をお寄せくださいました皆様から感謝申し上げます。広報部(後藤千和子・上妻和夫・田之上齊・小路由美子)

